

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI堺教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様との連携 ・保護者様との信頼関係づくりを大切に、日々のコミュニケーションや連携を図っている。お子さまの運動面はもちろん、その時々保護者様のニーズや困りごとに寄り添いながら、支援計画を作成。必要に応じて関係機関の情報提供を行ない、お子さまに合った最善の支援を一緒に考えている。 ・必要に応じて保育園や幼稚園への見学を実施し、多方面からの視点でお子さま一人ひとりに合った支援を考えている。	・日々のフィードバック時にお子さまの様子を丁寧に伝え、情報の共有を図っている。また、必要に応じて個別相談の場を設け、保護者様の悩みや困りごとに傾聴し、問題解決への方向性を共に考えている。 ・保育所や幼稚園への見学の依頼、難しい場合は電話での聞き取りを通して、足並みの揃った支援を提供できるように努めている。	・育児や家庭の状況に悩まれている保護者様が、気兼ねなく話のできるグループでの保護者懇談などの実施を検討する。きょうだいのおられるご家庭や、家族間でお子様への理解に差異が生じているご家庭など、同じ悩みを持つ保護者さま同士での交流の場を作ることができないか検討する。
2	運動プログラムの充実化、創作活動の取り組み ・日々ご利用されるお子さまの状況や年齢等に応じて活動の内容をチームで考えている。学校体育種目に向けた活動や、運動を通して社会性や協調性を育める活動、言葉を用いた活動など、お子さまの様子や保護者様のニーズに沿った活動内容を考えている。 ・創作活動を定期的に取り入れ、微細運動を通して想像力や表現力を身につけられるように支援している。	・運動メニューを中心に考えて進行するリーダーが連続で同じ曜日の担当にならないように振り分けている。リーダーが打ち合わせ時に伝える内容を全員で検討し、最終的な運動メニューを決定している。その日の進行状況やお子さまの様子によって臨機応変に対応している。 ・創作活動の内容は季節に合わせたものや、お子さまの興味関心によって意見を出し合い決定している。	・実際の支援内容と支援計画とにズレが生じた場合や意見がある場合に、相談できる場があることを周知していく。 ・創作活動では年齢や興味に沿っているか内容を検討していく。
3	季節に沿った活動内容や親子イベントの実施 ・お子さまの豊かな感性や想像力を育められるように季節を感じられる内容の活動を運動に盛り込んでいる。 ・お子さまの興味関心に沿った内容のイベントを定期的実施している。イベントを通して運動面だけでなく、協調性や社会性を育むねらいを持っている。	・季節に沿った活動では、お子さまに具体的に話を伝えることでイメージを持って取り組めるように配慮している。 ・イベントを通して親子での関わりを深め、楽しみながら「できた」「またやりたい」と感じ、保護者様から褒めてもらう機会を設けている。	・イベントの内容が前年度と重複しないように記録に残していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスをしていない ・送迎サービスを行っていない為、保護者様の負担が大きい。自転車や公共交通機関を使用して通われている方は、雨天時や寒波が強い日などは欠席することもある。 ・提携している駐車場がなく、隣接している駐車場は今年から同ビル内のクリニック専用に変った為、少し遠くに停めてきていただかないといけなくなり、負担をおかけしている。	・療育時間が95分の3グループ制の為、送迎サービスを行なうのは人員配置の観点から現実的ではないと考える。 ・駐車場の提携は本社へ打診したが、恐らく難しいとの回答。	・近隣の駐車場の情報を調べ、保護者様へ提供している。
2	児童が少ない ・近隣の小学校はほとんど小規模校で児童数が少ない。遠くからお越しいただいている方は平日の利用が時間的に難しい。 ・近隣の放課後等デイサービスが閉所するなど、地域的に児童の数が少なくなっている。 ・セルフプランをご利用のお子様が多い為、相談支援員さんとの関わる機会が少ない。	・周知活動の行き先を変更する。小児科病院や、保育園、幼稚園との連携を図り児童を紹介していただけるよう行う。	・周知活動の行き先を変更する。小児科病院や、保育園、幼稚園との連携を図り児童を紹介していただけるよう行う

3	<p>事業所に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っていない。</p> <ul style="list-style-type: none">・放課後連絡会に入っているため、他事業所への訪問はあるが、本事業所に招待することや、地域の方との交流はない。	<ul style="list-style-type: none">・他事業所とのかかわりを今まで持っていなかった。	<ul style="list-style-type: none">・堺地域福祉祭りなどの催事に参加することや、放課後連絡会での横のつながりを持つ。
---	---	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	TAKUMI 堺教室
------	------------

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 17

回収数 : 15

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15				人数に対して十分なスペースが取られている。	・定員、児童の年齢を考慮し編成に取り組んでいます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	15					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	1			ひとりひとりに合った支援かどうかはわからない	・個別支援計画の作成時にしっかりとアセスメントが取れるように努めてまいります。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	1		2		継続した支援活動でも同じ運動メニューではなく、子供たちが飽きないよう職員でミーティングを行っております。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	8		3	4	園の先生と連携してくれるのでありがたいです。	関係機関として保育園・幼稚園に訪問させていただくことがありますが、知らない保護者様にはお話しする機会を設けます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	1		3	・ペアレントトレーニングは興味があるのであれば受講してみたい。	親子イベントを行っておりますが、参加が難しい保護者様へのアプローチを検討します。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	15					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	1		1	・面談の機会がまだない。	現状では半年以内の個別面談を設けております。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	1	3	6		親子運動などの活動を通してそのような支援ができるよう努めます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	1		1	少しでも日常生活の豊かさに繋げていけるよう普段から安心して預けていただける環境づくりに努めます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	1			保護者アプリやSNS、LINE等でご連絡させていただいております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			2	・利用日の前日にはLINEでお知らせがあるので助かる。 教室SNSでは会社のSNSを知らない方もいらっしゃるので周知を行う。また前日にはイベント内容やお迎えの時間などリマインドしております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			3	職員での研修や、マニュアルの教室内掲示を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	1		2	・まだ怪我をしたことがないのでわからない。 契約時に必ずご説明を行っております。ご不明な点があればいつでもご連絡ください。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14	1			
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14	1			・いつも楽しく通ってます。 TAKUMI堺教室に来てよかったと思ってもらえるよう支援して参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				・今後も継続的な支援を期待します。 ・いつもありがとうございます。 楽しみながら成長できる環境を大事にこれからも継続的な支援を目指します。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI 堺教室	公表日	2026年 2月 28日
------	------------	-----	--------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			認められているが部屋が少ない為、状況により使えないときがある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		これまで第三者評価を受けたことがない。今後必要に応じて検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2	3		就学後のつながりはあるが、移行の際には、まだできていないと思う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		5	・センターとの連携は計れていないと思うが事業所内で職員間の情報共有は行っていると思う。	センターとの連携はないわけではないが、助言を受ける機会はない。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		親子プログラムを実施している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		・利用者負担等については自分自身が不勉強なところが多い
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	3		
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		食事の提供はしていない為、指示書の提出はしてもらっていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI堺教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 1月 5日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>保護者様との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者様との信頼関係づくりを大切に、日々のコミュニケーションや連携を図っている。お子さまの運動面はもちろん、その時々保護者様のニーズや困りごとに寄り添いながら、支援計画を作成。必要に応じて関係機関の情報提供を行い、お子さまに合った最善の支援を一緒に考えている。 必要に応じて保育園や幼稚園への見学を実施し、多方面からの視点でお子さま一人ひとりに合った支援を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々のフィードバック時にお子さまの様子を丁寧にお伝えし、情報の共有を図っている。また、必要に応じて個別相談の場を設け、保護者様の悩みや困りごとに傾聴し、問題解決への方向性を共に考えている。 保育所や幼稚園への見学の依頼、難しい場合は電話での聞き取りを通して、足並みの揃った支援を提供できるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 育児や家庭の状況に悩まれている保護者様が、気兼ねなく話のできるグループでの保護者懇談などの実施を検討する。きょうだいのおられるご家庭や、家族間でお子様への理解に差異が生じているご家庭など、同じ悩みを持つ保護者さま同士での交流の場を作ることができないか検討する。
2	<p>運動プログラムの充実化、創作活動の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々ご利用されるお子さまの状況や年齢等に応じて活動の内容をチームで考えている。学校体育種目に向けた活動や、運動を通して社会性や協調性を育める活動、言葉を用いた活動など、お子さまの様子や保護者様のニーズに沿った活動内容を考えている。 創作活動を定期的に取り入れ、微細運動を通して想像力や表現力を身につけられるように支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動メニューを中心に考えて進行するリーダーが連続で同じ曜日の担当にならないように振り分けている。リーダーが打ち合わせ時に伝える内容を全員で検討し、最終的な運動メニューを決定している。その日の進行状況やお子さまの様子によって臨機応変に対応している。 創作活動の内容は季節に合わせたものや、お子さまの興味関心に沿って意見を出し合い決定している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の支援内容と支援計画とにズレが生じた場合や意見がある場合に、相談できる場があることを周知していく。 創作活動では年齢や興味に沿っているか内容を検討していく。
3	<p>季節に沿った活動内容や親子イベントの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> お子さまの豊かな感性や想像力を育められるように季節を感じられる内容の活動を運動に盛り込んでいる。 お子さまの興味関心に沿った内容のイベントを定期的実施している。イベントを通して運動面だけでなく、協調性や社会性を育むねらいを持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 季節に沿った活動では、お子さまに具体的に話を伝えることでイメージを持って取り組めるように配慮している。 イベントを通して親子での関わりを深め、楽しみながら「できた」「またやりたい」と感じ、保護者様から褒めてもらう機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントの内容が前年度と重複しないように記録に残していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>送迎サービスをしていない</p> <ul style="list-style-type: none"> 送迎サービスを行っていない為、保護者様の負担が大きい。自転車や公共交通機関を使用して通われている方は、雨天時や寒波が強い日などは欠席することもある。 提携している駐車場がなく、隣接している駐車場は今年から同ビル内のクリニック専用に変った為、少し遠くに停めてきていただかないといけなくなり、負担をおかけしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育時間が95分の3グループ制の為、送迎サービスを行なうのは人員配置の観点から現実的ではないと考える。 駐車場の提携は本社へ打診したが、恐らく難しいとの回答。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の駐車場の情報を調べ、保護者様へ提供している。
2	<p>児童が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の保育園・幼稚園はどことも小規模園で児童数が少ない。違う園の他児と馴染むまでに時間がかかることがある。 近隣の児童発達支援事業所が閉所するなど、地域的に児童の数が少なくなっている。 セルフプランをご利用のお子様が多い為、相談支援員さんとの関わる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 周知活動の行き先を変更する。小児科病院や、保育園、幼稚園との連携を図り児童を紹介していただけるよう行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 周知活動の行き先を変更する。小児科病院や、保育園、幼稚園との連携を図り児童を紹介していただけるよう行う。

3	<p>事業所に地域住民を招待するなど、地域に開かれた事業運営を行っていない。</p> <ul style="list-style-type: none">・放課後連絡会に入っているため、他事業所への訪問はあるが、本事業所に招待することや、地域の方との交流はない。	<ul style="list-style-type: none">・他事業所とのかかわりを今まで持っていなかった。	<ul style="list-style-type: none">・堺地域福祉祭りなどの催事に参加することや、放課後連絡会での横のつながりを持つ。
---	---	--	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI 堺教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 31

回収数 : 20

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	2			・心身共に開放感を味わいながら安心して遊んだり活動しているように思えます。	身体を沢山動かせるような環境設定に心掛けております。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20				・必要に応じて適切な支援をいつもして下さっています。	今後も適切な人員での支援を行っております。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	19	1			・誰もが見てわかりやすいように色んなことを視覚化して下さっています。	視覚優位なお子様や、見通しを持って活動できるよう努めております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18	2			・特性をしっかりとらえて下さっているのも丁寧であたたかい支援を受けられています。 ・子供の視点で考え何に困っているか、どうしたいかをとても深く考えていただいているのが伝わってきます。	職員は療育事前、事後ミーティングを毎日行っております。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	2				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	1			・日頃から子供のことをよく見て下さっているのも、とても細やかで丁寧に作成して下さっています。	職員でのミーティングの時間を設けております。また意見が固まらないようフラットな目線でミーティングを行うことを意識しております。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	2		1		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	19	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	19	1			・その日に利用する子供たちにあったプログラムにすることもとても難しいです。	来所される児童が飽きないように継続的な支援を行いつつ、内容の変更ができるよう心掛けております。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2	5	8	・学校で十分だと思っているので不足しているとは思っていない。	地域の方と交流する機会など検討していきます。
保 護 者 へ の 説	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	20					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	14		1	5	・活動の様子を見学させてもらえたり、活動後のフィードバックではその日の様子や頑張っていたこと、課題などを詳しく話して下さいます。また家でのことも聞いてもらえます。	親子イベントでは沢山の保護者様が一緒に活動して下さっていますが、参加できないご家庭のケアを努めてまいります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	19	1			・フィードバックが丁寧だと思います。	活動内容や、ご家庭での困りごとなど安心してお話しできる環境づくりにこれからも努めてまいります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	2				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19	1			・いつもどんなこともあたたかく受け止めて下さっています。 ・子どもにも親にもいつも前向きな声掛けをして頂いてとても嬉しいです。	苦手なことでも前向きに取り組み「できた」が増えるよう支援を行ってまいります。

明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	5	2	4	・特に交流を必要とはしていないので不満はない。 ・親子イベントの時、他の保護者の方と話せたりできるので嬉しいです。	療育時間95分の中でできる限りのことができたかと思っております。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	2	1			現状では半年以内に個別面談を行っております。また日ごろから話しかけやすい雰囲気、環境作りに努めます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19		1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	18	2				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	2		1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	20				・安心感いっぱいだと思います。	日頃から児童、保護者様との些細なコミュニケーションを大事にしております。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	2			・とても楽しみにしています。色々なことができるようになっていく喜びを感じながらイベントも楽しみにしています。 ・いつも楽しく通っています。 ・毎回とても楽しみにしています。	楽しみながら活動できるよう努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19	1			・大満足です。いつもあたたかい眼差しや細やかな支援に感謝しています。 ・いつもありがとうございます。	これからも安心して預けていただけるよう職員一同努めてまいります。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		TAKUMI堺教室				公表日	2026年 2月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5					
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5					
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5			認められているが、部屋が少ない為、状況により使えないときがある。		
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4		今まで第三者評価を受けたことがない。今後必要に応じて検討していく。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1				
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5					
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5					
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5					
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5					
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5					
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5					
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3	2		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2		特定の児童に限る。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		まだしたことがない。学校卒業する年齢の利用者がほとんどいない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4		センターと連携を取ることはあるが、助言や研修を受けたことがない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		親子プログラムは実施している。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		
47		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
48		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
49		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		食事を提供していない為、指示書の提出はしてもらっていない。
50		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
51		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				